

新刊
紹介

For some in ancient books delight,
Others prefer what moderns write:
Now I should be extremely loth
Not to be though expert in both.

柳島彦作・児玉操著 Ryokan the

Great Fool (京都精華短大出版部 A5

判・一一一頁・六〇〇円)

柳島先生の英文はいつもながらみごとである。わけても深い内容をたたえた良寛の諸作品の英訳はすばらしい。異国語を駆使して神韻縹渺ともいうべき良寛の世界をかくも的確に再現された先生のご手腕とご苦心とに深甚の敬意を表したい。先生の英語はたしかに「日本的風味に満ちている」"full of Japanese flavor"に相違なく。しかしそれは先生の英語が英語の神髄に参入したものであることと矛盾するわけではない。英語の神髄に徹し、そしてそれを突き破ったところにはのぼのと香りきたるも

の、それが先生の文章を特徴づけるあの日本的香氣なのである。この香氣のゆえにこそ先生の訳業は典型的な日本人良寛の人と思想と風格とを良寛自身の夢想だにしなかった異国語でもってかくもあざやかに表現することをおえたのである。

The wide, wide universe
Stand silent in the snows

And in it is falling

The light snow still!

四十五頁に見られる一文である。じつに日本的な情景であり風趣である。脚註に良寛の短歌が示されている。

あは雪の中に立ちたる 三千大千世界

またその中に あは雪ぞ ふる

この歌を一読して無知なわたしは、第三句の字余りがすこし度をすぎると感じた。「サンゼンダイセンセカイ」、哀れなわたしはこう読んだからである。ところでその下にちやにローマ字がつけらねてある。

Awayuki no nakani tachi taru

nichitochi mata sono nakani

awayuki zo furu

わたしは破顔一笑した。と共に自分の無

知をはずかしく思った。三千大千世界は「ミチオーチ」と読むべきであった。これなら勿論字余りでもなんでもない。満六十九才にして（というのは私がこの拙文を草しつつある今は五月十七日であり、そして明々後日の二十日は私の誕生日だからである）わたしは一つの貴重な知識を恵まれたわけである。

この書の装幀は高雅であっていかにも良寛的・柳島の・児玉的である。巻頭には良寛の肖像、遺跡、筆蹟など一〇葉あまりの写真が載っている。柳島先生の英訳の下欄には良寛の漢詩、短歌、俳句にはさらにローマ字でその正しい読み方が示されている。きわめて親切な良心的な編集だと言われてよい。欧米の人々はこれを読んでおそらく仏僧良寛なるユニークな日本人の魂に直接に触れることができるであろう。ある程度良寛に親しんでいる日本の読者もこの英訳に媒介されて自己のもつ良寛像がより以上に深められたことを感ずるであろう。わたしはこの書が国内国外の多くの人々によって味読されんことを祈らずにはいられない。

(今井仙一)